

「低周波吸音材」
取扱説明書

SSC 株式会社 昭和サイエンス

このたびはV型低周波吸音材をご購入いただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上正しくお使いください。

1. 低周波吸音材とは

本製品は、多孔質体と特殊吸音皮膜を積層した膜振動型の吸音体です。膜振動型の吸音は共鳴原理を応用したもので、音のエネルギーを膜の振動に変換することで、特定の周波数で高い吸音率を実現します。

2. 特長

- ・中・低周波音の吸音性能が優れています。
- ・設計が容易です。
- ・施工が容易です。
- ・不燃認定取得…F25V（低周波用）：認定番号「NM-4118」
25F25V（広帯域用）：認定番号「NM-3680」

3. 用途

- ・各種機器の内装材：電力機器、防音ボックス
- ・建築：スタジオ、ホール
- ・車両：エンジンルーム
- ・ハイテク機器：半導体検査機器、電子顕微鏡
- ・音響：オーディオルーム、楽器練習室、ホームシアター、会議室、応接室

⚠ 注意 ■本製品は屋内専用です。またお風呂場、シャワー室など湿気の多い場所で使用しないでください。
屋外用にフッ素樹脂フィルムでラッピングした商品も用意しております。

発塵防止用に表面をガラスクロスで覆った商品も用意しております。

4. 安全及び取扱い上のご注意



<健康安全上の注意>

- 施工作業・解体作業等の取り扱いに際しては、長袖で袖口がしまり、かつ、ゆったりした衣服、防じんマスク、帽子またはヘルメット、保護手袋、防護めがねを着用してください。
- 切断する場合は、カッターナイフ等の手動工具を用い、粉じんが飛散しないよう注意してください。
- グラスウールの廃材は、速やかに袋に入れる等、粉じんが飛散しないよう注意してください。
- 製品への上乗り作業は危険です。また、製品が破損する可能性がありますのでお止め下さい。
- 品質上の問題はありませんが、Vタイプはグラスウール固有のにおいを感じことがあります。

<保管上の注意>

- 保管時には、野積みや重量物の下積みにしないで下さい。高湿度、直射日光の影響を受ける場所を避け、パレットなど敷物を用い水平に置いてください。
- 雨水に濡らさないこと。水濡れは厳禁です！

<施工、利用上の注意>

- 火災防止上、裸火、溶接・溶断の火花、その他の火源を近づけないでください。
- 水濡れは厳禁です。万一、濡れたら乾かしてから使用してください。
- 決められた用途以外の利用は、製品の仕様特性を十二分に把握の上ご利用者の責任でご利用下さい。
- グラスウールの突き付け部は、すき間のないように施工してください。
- 手かぎを使用しないで下さい。
- 特殊吸音皮膜は厚さが数百ミクロンと薄いため、取付作業中、落下等により破れてしまうことがあります。針やカッターナイフで刺したり、突起物とぶつけたりしないよう取り扱いには十分ご留意願います。
- 本製品を廃棄する場合には、産業廃棄物として処理してください。
- 箱からの取り出しあは、丁寧に扱って下さい。

5. 梱包内容
- ・ダンボール箱梱包 1式
 - ・取扱説明書（本書）1枚

⚠ 注意 ■ ご購入して頂いた製品に汚れ、破損があった場合には販売店又は弊社営業窓口にご連絡ください。

6. 設置方法

- 設置の際は、音源側に吸音皮膜をむけて配置してください。このとき製品裏面の吸音材と壁面の間に隙間がないように施工してください。特に音の反射がある場所に設置すると効果的です。
- 本製品の特殊吸音皮膜は薄いので多孔質体とはがす方向に力をかけないでください。
- 吸音材の表面に板など音を反射するものを配置しないで下さい。表面を保護する場合は、音をよく通す薄いガラスクロスや、薄い布などで吸音材表面を覆うことは、特性上問題はありませんが、密着・接着はさせないで下さい。表面にポスターなどを貼ったり、物を掛けたりしないでください。吸音性能が低下しますのでご注意ください。
- スピンドルピンを利用して壁面に設置するときは、左右に約 300mm 間隔にスピンドルピンを立て、製品 1 枚あたり 6 本使用してください（2×3 版の場合）。
- スピンドルピンで押さええるときは、吸音皮膜の動きを拘束しない程度に固定してください。
- スピンドルピンで押さえられない周囲 4 辺については、吸音皮膜と多孔質体とをスポット接着（点付け接着）にて接着してください。面張りやスジ張りは吸音率が低下しますので、避けてください。
- スピンドルピンが立たない場所では、鋼材で 4 辺を保持し使用することも可能です。

7. 施工要領



スピンドルピンの設置

壁面に接着剤で貼り付けます

吸音材の設置

吸音皮膜が表になるように貼り付けます

表面の固定

ボタンワッシャーで固定し、脱落を防止します
この際、必要以上に押さえつけないでください

8. 製品仕様

名称(主な用途)	Type	型番	区分	構成(音源側から)	寸法(mm)	耐熱温度(°C)
低周波吸音材 (建築、機械設備)	V	F25V	低周波帯域型	F25V	605×910×25 910×1820×25	100
		25F25V	広帯域型	GW*25t+F25V	605×910×50 910×1820×50	
	R	R25	低周波帯域型	R25	910×1000×25	
		25R25	広帯域型	カレタ 25t+R25	910×1000×50	

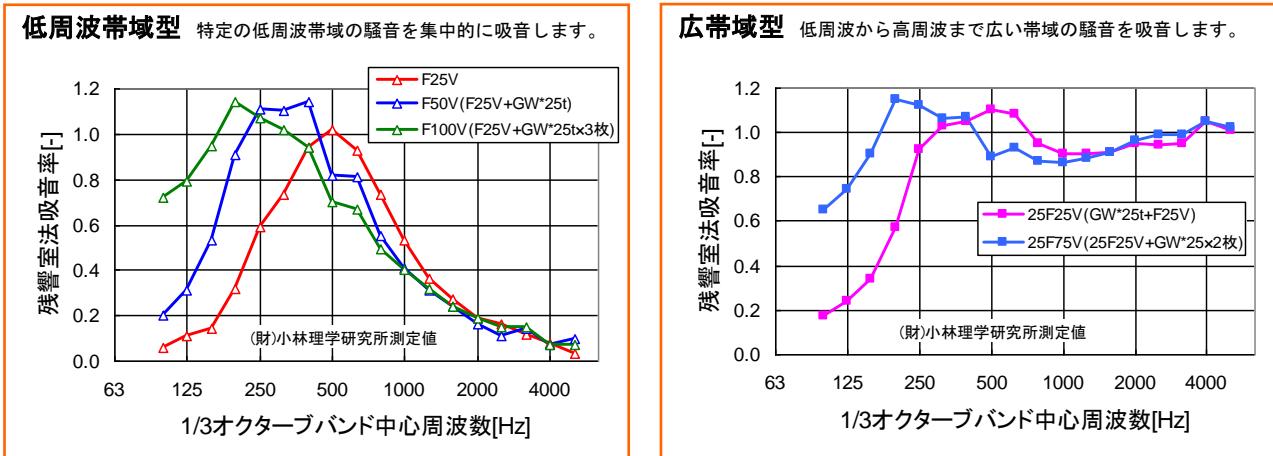


注意■ 廃棄される場合は各市町村の条例に従って処分して下さい。



注意■ 効果は設置場所の状況により異なります。

9. 吸音特性



周波数別吸音率データ

試験方法 : JIS A 1409 準拠

■ 音響計算用の参考データです。測定の例であって性能を保証するものではありません。

■ 効果は設置場所の状況により異なります。

- 掲載の製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。
- 製品の色は素材のロットにより若干、色のバラツキがあります。
- Rタイプ側面は、吸音皮膜材の付着がありますが、使用上問題ありませんのでそのままご使用下さい。

お問合せ先

株式会社 昭和サイエンス

本社 第二営業部 制振制音グループ

〒210-0024 神奈川県川崎市川崎区日進町1-14 JMFビル川崎O1 2F

TEL(044)223-0571

URL: <https://www.ssvi.co.jp/>

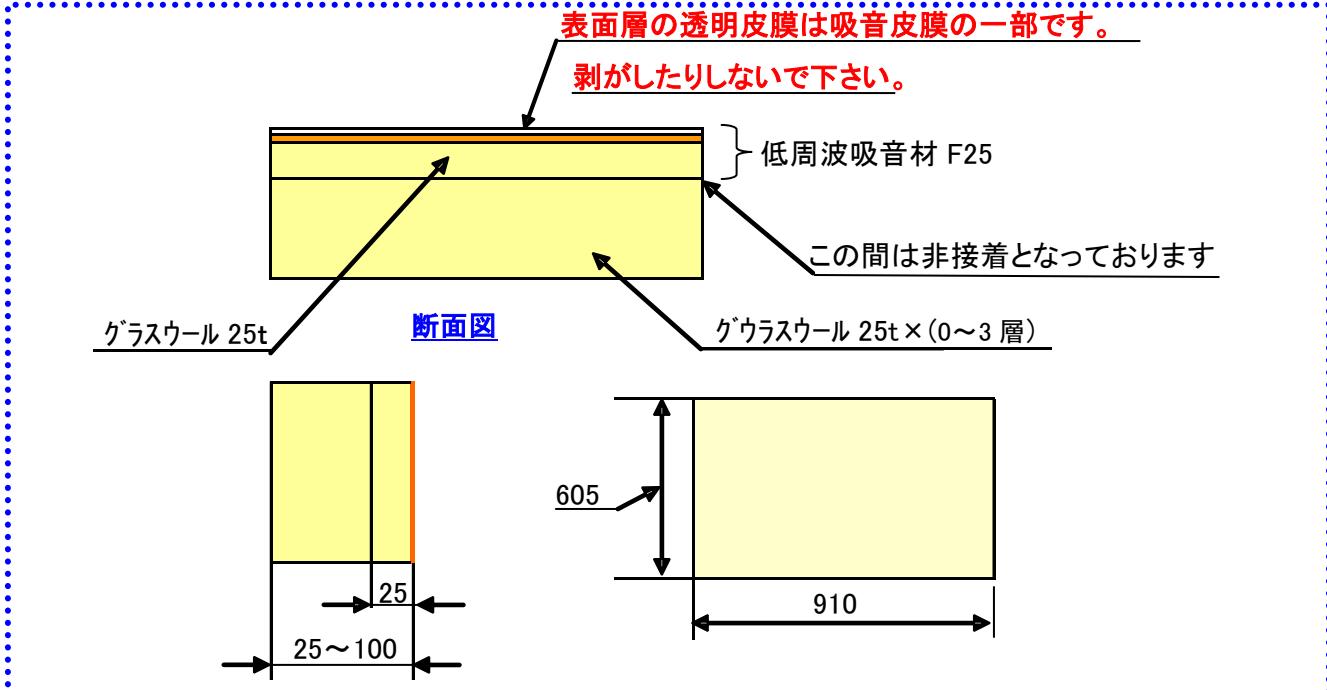
2021.4 VD0-13015 Rev. D

低周波吸音材 F25,F50,F100 取扱説明書

1. 構成

低周波吸音材 F25とガラスウールとの積層構造体で、それぞれは非接着となっております。

2. 形状・寸法・構造



3. 使用上の注意

- ① 透明皮膜と吸音皮膜下層及びグラスウールの硬さは、剛と軟の関係にありますので、取り扱い上凹曲げに対しては透明皮膜のシワが発生しますので、注意して取り扱い願います。
- ② F25の構成は吸音皮膜とグラスウールの一体構造体ですので、表面層の透明皮膜は剥がさないでご使用願います。
- ③ 施工の注意として、吸音皮膜が音源側(グラスウール表面が壁、板金側)になるように施工をお願いします。逆になると、本来の特性を得ることができません。
- ④ F50、F100としてご使用の際はケース内に収納し、表面層を開口率の大きいパンチングメタルでカバーして使用することをお勧めします。また、表面を額縁の縁で4辺を固定し使用することも可能ですが。(端部を何らかの方法で保護しご使用願います。)
または、吸音特性に影響を与えない薄手ガラスクロスで、被覆して使用することをお勧めします。
※透明皮膜露出でのご使用は、極力避けて下さい。

4. 梱包

箱からの取り出しあは、丁寧に扱って下さい。